

第 4 回 富士見市総合計画等審議会

議事録

日 時	令和 6 年 3 月 2 2 日 (金)	開会 午後 6 時 3 0 分				
		閉会 午後 8 時 4 5 分				
場 所	富士見市役所 1 階 全員協議会室					
出 席 者	委 員	鏡会長	今井副会長	秋元委員	朝賀委員	齊藤委員
		○	○	○	○	○
		志摩委員	島田委員	鈴木委員	関谷委員	高橋委員
		—	○	○	○	○
		檜木委員	根岸委員	星野委員	山本委員	吉原委員
		○	○	○	○	○
	事務局	政策財務部 水口部長 政策企画課 荒田課長、甲佐副課長、池田主査、上村主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 名)					
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 行政評価の総括について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 事業の見直しについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>					

議 事 内 容 (要 旨)

1 開 会 政策企画課長

2 あいさつ 鏡会長

<本市の現状について> 政策財務部長

3 議 事 鏡会長 進行

(1) 行政評価の総括について

事務局：(全体的な評価結果について報告)

委 員：事業のスクラップについて説明のみであったが、ビルドについての検討はしないのか。

事務局：スクラップアンドビルドの考え方に基づき、ビルドについてもスクラップと同時に考えるものと捉えている。

会 長：資料では特徴的にスクラップを前面に出してあるが、元々計画はビルド中心に作られている。今後はスクラップ。スクラップを進めて、ビルドが成立すると考えられる。

会 長：P D C A サイクルの中でチェック・アクションについては重要だが、指標化することが難しい。その点について、あえて数値化に取り組んでいることは評価すべきと考える。

(2) 事業の見直し (スクラップ) について

事務局：(事業の見直しについて概要説明)

会 長：今回審議会に課せられた役割は、①見直しの手法について改善点や問題が無いのか、②事業の見直しにおけるハードルや障壁について、と捉えている。

事務局：(事業の見直し手法について説明)

委 員：資料4別紙に「内水対策の推進」が対象となっているが、事務局として内水対策はもう必要ないという捉え方をしているということか。

事務局：「内水対策の推進」については、排水ポンプの増強に伴う、雨水管渠の整備の必要性について分析検証が済んでいないことから、見直す必要があるとして捉えているため、ここに含んでいるものである。

委員：「内水対策の推進」を廃止の対象として捉えているわけではないという理解でよいか。

事務局：見込みのとおりである。事業の見直しは「廃止」に限らず、「縮減」や「代替」も含めた取組の見直しと整理している。

委員：小中学校の統廃合や出張所など施設についてのスクラップは含んでいないのか。少子高齢化や人口減少を見据えて、必要ない施設を見直す必要があるが、その際、住民の不満や不安を解消するための代替案も用意しておく必要がある。

事務局：適切な量の施設を保有するという考え方については、現在、行財政改革の部分で、公共施設マネジメントとして整理している。しかしながら、委員ご指摘のとおり、施設の統廃合にあたっては、利用者の意見や既得権という課題に対する議論が必要であり、今後さらなる整理が必要となると考えている。

会長：公共施設に関することについては、それぞれに箱物施設があるため、各施策に溶け込んでいることから、きめ細かく中身を見ていく必要がある。

委員：見直しの対象に道路や下水など、インフラに係る事業が含まれているように見受けられる。元日や先日の地震なども含め、3年前の状況と現在の状況が変わっていると考えられるため、住民の安心・安全な生活を守る観点から、事業の優先度は十分考慮する必要があるのではないかと。

また、目標値を大きく達成しているものと、全く進んでいないものを同じ分類で整理し、見直し対象としているが、もう少し細分化した方が、事業の状態を認識しやすいのではないかと。

事務局：コロナ禍を経て、市として何に取り組むべきか、何を優先すべきかを改めて見直すべきと事務局としても強く認識している。令和6年度以降、全ての施策の見直しを実施する際には、策定時点と現在の状況の違いを十分認識したうえで検討していきたい。

また、ご指摘いただいた分類については、所管課に見直しの理由を十分伝えたいと実施していくこととしたい。

委員：今回の内容では、当初計画していた取組は実施したが、結果的に人口増・財政改善に寄与していないという観点が入っていない。今後、スクラップビルドを進める上では、財政への寄与度についても観点として持つべきである。

事務局：人口増については、活力あるまちづくりを続けていくという観点から重要と考える。現在は総合戦略の中で整理を行っているところだが、次の計画策定に合わせ整理し、方向性を検討していきたい。

委員：だいぶ先の話ではなく、既に高齢化は進んでいると実感している。例えば、日中、みずほ台では歩いているのは高齢者が多い印象を持っている。しかし、歩道の段差や幅など高齢者に対して優しくない状況があると思う。先の人口減少の話も必要だが、現在住んでいる、これまで長く住んできた市民の方々における生活課題を解決し、今住んでいる人が住んでいて良かったと思えるような税金の使い方が見えると良いのではないか。

会長：行政としては現状及び将来の予測をもとに計画を立てる必要がある。一方、現在住んでいる方の生活課題の解消も喫緊の課題として重要である。両者にはどうしてもギャップがあり、その優先順位が政治課題となる。市民にとっては、現在の不便さ・課題をどのように解消していくべきかという視点は大変重要である。

委員：日中市内に滞在している高齢者が多いのは、みずほ台に限らず、富士見市全域で言える話だと思う。若い人は日中、都心に出てしまう。

委員：学区の見直しがそろそろあってもいいのではないか。水谷小学校の児童が増え、整備を行ったという話もあったが、現状に合わせ整備したとしても、将来的には児童が減ってくる可能性もある。
このようなタイミングで学区の見直しがあってしかるべきであり、施設の有効活用や、地域の支えあい、人の流れの変化にもつながるという意味で有効であると考ええる。

会長：学区の見直しは、全市の課題としては議論すべき点である。単に一地区のみの見直しに止まらず、コミュニティの問題として、人口減少、地域の変容に対応する手段の1つとして、学区の再整理も見直しの議論に含まれるものと考ええる。

委員：町会やまちづくり協議会の役員も高齢化が進んでいる。将来的には枠組みを見直す必要があると考ええる。

会 長：社会変容や自然災害等これまで想定しなかったことと基本計画との間にギャップが生じてきている。加えて産業構造や人口構成の変化によるまちの成熟度に合わせ、まちづくりとしての学区や自治会のコミュニティや個別施策を見直していく必要がある。この部分については、タウンミーティングやパブリックコメントを踏まえながら見直しを進めていくことが望ましい。

事務局：(事業の見直しにおけるハードルや障壁について説明)

委 員：事業見直しにあたっての理由を明らかにした方が良い。

副会長：ハードルや障壁については、具体事例を踏まえないと出てこないと思う。このため、具体事例を見ながら議論したほうが良い。

会 長：指摘のとおりと考えるため、事務局においては、その部分を次回までに整理してもらいたい。

会 長：これまでの意見等を踏まえ、①暮らし方が変わってきている中で、新規事業等が必要であるか丁寧な説明が必要、②事業の見直しについては判断するための明確な仕組みを整える必要がある、とまとめる。

また、次回の審議にあたっては、委員が議論や判断をしやすいよう事務局において検討材料をまとめてもらいたい。

4 その他

第5回審議会（令和6年3月28日開催）、第6回審議会（令和6年4月16日開催）についての案内

5 閉 会